

「子ども発達支援センター・さんだ」支援 チャリティ・コンサート

**アラベラ・美歩・** Stradivarius 1716 violin "Booth"  
**シュタインバッハー**  
**ヴァイオリン リサイタル**



© 横山 進一



© Peter Rigaud

**2017年 7月18日(火)**  
18時30分開演(18時開場)

三田市総合文化センター

さと  
ね  
**郷の音ホール 大ホール**

主催：子ども発達支援センター・さんだ支援チャリティ・コンサート実行委員会  
公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団 社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会  
協力：日本音楽財団(日本財団助成事業) 協賛：郷の音ホール(三田市総合文化センター)  
後援：三田市 三田市教育委員会 三田市音楽協会 三田市医師会 三田ロータリークラブ

「子ども発達支援センター・さんだ」支援 チャリティ・コンサートにお越しいただき、ありがとうございます。

子どもは兵庫県三田の「かるがも園」「すくすく教室」の運営とともに、『子ども発達支援センター・さんだ』で、特別な支援を必要とする子どもに、療育訓練、スポーツ教室、社会生活力プログラム、保護者・専門職員対象の研修会の開催などの民間福祉活動を行っております。

日本音楽財団の協力によるチャリティ・コンサートも、今回で4回目を迎えました。コンサートチケットの売上は、「子ども発達支援センター・さんだ」の活動に使用させていただきます。

公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団  
社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会  
理事長 片岡 實  
子ども発達支援センター・さんだ支援  
チャリティ・コンサート実行委員会



### 子ども発達支援センター・さんだ かるがも園・すくすく教室

子どもの発達支援のための総合的で先駆的な療育活動や研修活動などをすすめています。

子どもの発達過程でのさまざまな問題や心配に、いつでも相談にのります。

～ 一人ひとりの大切な発達を援助するために ～

子ども発達支援センター・さんだ

聴覚言語療法、作業療法、理学療法、感覚統合療法、視機能・視知覚訓練、シェルボーン・ムーブメント・セラピー、社会生活力プログラム、スポーツ教室、療育研修会などの開催

かるがも園・すくすく教室

子どもたちには、もって生まれたすばらしい能力があります。能力を十分に発揮して自信をもって大きく育つように個々のお子さまにあったプログラムを提供します。

「子ども発達支援センター・さんだ」 兵庫県三田市井ノ草808番地  
Tel(079)568-1955 Fax (079) 560-0595 <http://www.sanda-kodomo.jp>

## Program

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン  
Ludwig van Beethoven (1770-1827)

### ヴァイオリンソナタ第1番 ニ長調 作品12-1

Violin Sonata No. 1 in D major Op.12 No.1 (1798)

I Allegro con brio  
II Tema con variazioni: Andante con moto  
III Rondo: Allegro

カミーユ・サン＝サーンス  
Camille Saint-Saëns (1835-1921)

### 序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 作品28

Introduction and Rondo Capriccioso in A minor Op. 28 (1863)

アストル・ピアソラ(ピーター・フォン・ヴァインハルト編曲)  
Ástor Piazzolla (1921-1992) arr: Peter von Wienhardt (1966-)

### オブリビオン(忘却)、リベルタンゴ

Oblivion (1982)  
Libertango (1974)

モーリス・ラヴェル  
Maurice Ravel (1875-1937)

ツイガーヌ  
Tzigane (1924)

## ストラディヴァリウス「ブース」について

アラベラ・美歩・シュタインバッハー

私が初めてヴァイオリン“ブース”を弾いた時、その深みのある温かい音色に感動のあまり一瞬にして体が震えました。同時に、この楽器について学ぶことがあまりにもたくさんあることを知りました。このようなヴァイオリンの音色はいつも神秘的で、まるでヴァイオリンが生きてきた300年の物語を私たちに語りかけようとしているかのようです。しばらくこのヴァイオリンを弾いてきて言えることは、弾き始めた頃より音色は変化し、進化したということです。私は、このヴァイオリンのもつ様々な音色を発見する中で多くのことを学びました。音楽を通して自分の感情を表現する上で、いつもこの楽器から刺激を受けています。この素晴らしいヴァイオリンを弾く機会に恵まれたことを本当に有難く思います。

数年前のタングルウッド音楽祭でマエストロ フォン・ドホナーニ指揮ボストン交響楽団と初共演し、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を弾いた時のことです。舞台に向かう前、突然誰かが楽屋のドアをノックしました。それは、ボストン交響楽団の前コンサートマスター、ジョゼフ・シルヴァースタイン氏でした。彼は、「私たちにはストラディヴァリウス“ブース”に関して共通点がある。」と話し始めました。彼の師であるミッシャ・ミシャコフ氏は1950年代にこの“ブース”を所有しており、シルヴァースタイン氏がボストン交響楽団との初共演で同じくベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を演奏した時、師のストラディヴァリウス“ブース”を弾かせてもらったと言うのです。とても特別で、感動的なひと時でした。

## ストラディヴァリウス 1716年製ヴァイオリン 「ブース」

Stradivarius 1716 violin “Booth”



© 横山 進一

1855年頃にイギリスのブース夫人が所有していたため、現在の名が付けられている。彼女はヴァイオリンの才能を発揮した2人の息子たちのためにストラディヴァリウスのクアルテットを形成しようと試み、この楽器を購入した。1931年にアメリカの名高いヴァイオリン奏者ミッシャ・ミシャコフ（1896～1981）の手にわたり、1961年にはニューヨークのホットティング・コレクションの一部となった。音色の美しさ、音の力強さにおいて知名度が高く、保存状態も優れている。

## アラベラ・美歩・シュタインバッハー (ヴァイオリン)

Arabella Miho Steinbacher (Violin)



© Jiri Hronik

ドイツ人の父と日本人の母の下ミュンヘンに生まれる。3歳でヴァイオリンを学び始め、9歳でミュンヘン音楽大学のアナ・チュマチェンコの最年少の生徒となる。さらに、ヴァイオリンの巨匠イヴリー・ギトリスからも薫陶を受ける。

2004年パリで、ネヴィル・マリナー指揮フランス放送フィルハーモニー管弦楽団との初共演で成功を収めたことを機に、ソリストとしてのキャリアをスタートさせた。

以来、ロリン・マゼール、クリストフ・フォン・ドホナーニ、リッカルド・シャイー、ヘルベルト・ブロムシュテット等著名な指揮者、ロンドン交響楽団、バイエルン放送交響楽団、シカゴ交響楽団、クリーヴランド管弦楽団等世界のトップオーケストラと共演を重ねている。

2009年よりペンタトーンと専属契約を結び、同年発売された、マレク・ヤノフスキ指揮ベルリン放送交響楽団との共演によるドヴォルザークとシマノフスキのヴァイオリン協奏曲を収録したCDは、本人にとっては2度目となるドイツ・エコー・クラシック・ワードを受賞した。また、ルツェルン音楽祭弦楽合奏団との共演によるモーツァルトのヴァイオリン協奏曲を収録したCDは、グラモフォン・アワード2014のレコーディング・オブ・ザ・イヤーにノミネートされた。非営利団体CAREのアンバサダーとして、同団体の行う世界における貧困の解決と災害時の人道支援活動に参加している。

## 林 絵里 (ピアノ)

Eri Hayashi (Piano)



東京に生まれ、4才よりピアノを始め。1977年第31回全日本学生音楽コンクール、奨励賞受賞。

桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。

ピアノを樋口恵子、弘中孝、故中島和彦の各氏に師事。卒業後、同大学に於いて、2年間、弦楽科伴奏研究員を務める。

1986年第8回チャイコフスキー国際音楽コンクールのチェロ部門で最優

秀伴奏者賞を受賞。1986年より日本国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門の公式ピアニストを務める。1991年、ミュンヘンにて、ワルター・ノータス氏に師事。

これまで、スティーヴン・イッサーリス、エドアルド・メルクス、ドン・スク・カン、バルトゥミオ・ニジジョー、ヴィヴィアン・ハーグナー、エリック・シューマン、徳永二男、諏訪内晶子をはじめ、数多くの演奏家と共演。また、NHK交響楽団メンバーとの室内楽演奏や、NHK-FM、CDの録音なども行っている。現在、国内外で共演ピアニストとして活躍中。